

市街地に分布を広げる

# オオヒカゲミズとカベイラクサ

植村 修二

オオヒカゲミズ *Parietaria pensylvanica* Muhl. ex Willd.

カベイラクサ *Parietaria judaica* L.

イラクサ科ヒカゲミズ属

## ■分布

世界ではヒカゲミズ属の約 10 種が雑草とされる (Randall 2002)。そのうち、ゴウシュウヒカゲミズ *P. debilis* G.Forst. (第 56 巻 1 号参照)、カベイラクサ、オオヒカゲミズが帰化している (米倉・梶田 2007)。帰化種は関東以西で知られており、カベイラクサ、オオヒカゲミズは近畿地方の市街地で、オオヒカゲミズは大阪府大阪市内の農地での発生例がある。

## ■形態と見分けるポイント (図参照)

オオヒカゲミズはやや軟弱な一年生草本で、全体が黄緑色で、茎や葉柄には軟毛が散生し、赤味を帯びることもある。葉身は全縁の細い卵形で、長さ 1.5～6cm、幅 0.5～2cm となり、先は鈍頭、葉柄は長さ 1～3cm になる。小さな苞葉のある頭状花序を葉腋につける。苞葉は他の帰化 2 種より長く、花序より出ること容易に見分けられるが、開花時には苞葉が伸びておらず、次のカベイラクサと誤同定されやすい。

カベイラクサはやや軟弱な多年生草本で、茎や葉柄には軟毛がやや密で、赤味を帯びることが多い。葉身は全縁のやや卵形で、先は鈍頭、表面は濃緑色で光沢があり、長さ 1.5～4cm、幅 0.5～2cm となる。葉柄は長さ 1～3cm になる。小さな苞葉のある頭状花序を葉腋につける。



図 市街地に繁茂するヒカゲミズ属の帰化植物。  
A: オオヒカゲミズ (1: 都市農地の縁で群生, 大阪府大阪市, 2: 花序を着けた枝, 大阪市, 3: 苞葉の短い開花初期の花序, 大阪市) と  
B: カベイラクサ (1: 高架下で群生, 兵庫県神戸市, 2: 花序を着けた枝, 箕面市栽培品)

## ■雑草としての情報

オオヒカゲミズは北アメリカ原産で、1987 年に神奈川横浜市の埠頭で採集されたが、その後の報告はなく一時帰化と考えられた (大西 2018)。しかし、大阪府では、2015 年ごろ、大阪市や寝屋川市で見つかり、その後大阪市大正区、港区では、公園内や校庭、路傍などに普通に見られる場所が急増し (大阪市立港晴小学校 2018 ほか)、新御堂筋沿いのグリーンベルト内 (大阪市淀川区) にも見られる。その附近の畑地にも発生し、2019 年には防除のためか消失した (森田弘彦 私信)。急速な分布拡大には人や車の移動に加え、アリによる種子散布も関与していると考えられる。

カベイラクサは地中海沿岸地方原産で、1987 年に神奈川県横浜市で見出され、現在横浜市内での採集例が数ヶ所になっていることから日本に定着する可能性がある (大西 2018)。近畿地方では、1996 年に兵庫県神戸市のコンテナヤード附近の植え込み内で発見され、現在では阪神高速 3 号神戸線の高架下では純群落を形成している。また、大阪府藤井寺市の路傍でも数個体見つかっている。現在のところ、農地への侵入は見ておらないが、海外では農地の雑草とされており (Randall 2002, Holm *et al.* 1979)、わが国でも農耕地への侵入に注意を払う必要がある。海外では、カベイラクサは石垣やコンクリート壁の隙間を好んで生育している。わが国においてもこのような高い位置での生育が増えてくると、カベイラクサが新たな花粉アレルギー原因植物となる可能性がある。原産地ではカベイラクサの花粉は主要なアレルギー源とされ (Fotiou *et al.* 2011)、本種が帰化したオーストラリアでも花粉アレルギーの原因になるとされている (Auld and Medd 1987; Richardson *et al.* 2016)。

両種とも、これまでわが国での除草剤適用試験は行われていないが、海外では、カベイラクサに対してグリホサートの有効性が認められている (NSW Department of Industry ほか)。

## ■参考文献

- Auld, B.A. and R.W. Medd 1987. Weeds An illustrated botanical guide to the weeds of Australia.
- Fotiou, C. *et al.* 2011. *Parietaria judaica* flowering phenology, pollen production, viability and atmospheric circulation, and expansive ability in the urban environment: impacts of environmental factors. *Int. J. Biometeorol.* 55, :35-50.
- Holm, L. *et al.* 1979. A geographical atlas of world weeds.
- NSW Department of Industry. Pellitory (*Parietaria judaica*) - NSW Weed Wise.  
<https://weeds.dpi.nsw.gov.au/Weeds/Pellitory> (アクセス確認: 2022 年 2 月 5 日)。
- 大阪市立港晴小学校 2018. 大阪市立港晴小学校の生き物さがし,  
<https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/cmsfiles/contents/0000545/545009/1815kousei.pdf> (アクセス確認: 2022 年 1 月 14 日)。
- 大西 亘 2018. イラクサ科, 神奈川県植物誌 2018 電子版, pp. 902 - 918.
- Randall, 2002. A global compendium of weeds.
- Richardson, E.J. *et al.* 2016. Weeds of the south-east An identification guide for Australia 3rd.ed.
- 米倉浩司・梶田忠 2007. 植物和名一学名インデックス YList,  
<http://ylist.info> (アクセス確認: 2021 年 12 月 27 日)。